

先輩に 続け

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
神経情報医学部門 病態情報医学講座
薬理学分野(医学系) 特任助教
石澤 有紀 (いしざわ ゆき)



4歳の娘、2か月の息子と

略歴 Profile

1980年5月	香川県丸亀市生まれ
2003年	徳島大学大学院 博士課程MD-PhDコース進学
2006年	徳島大学医学部 医学科(5年次)再入学
2008年	徳島大学医学部医学科卒業
2009年~2011年	徳島大学病院・ 徳島市民病院にて 医師卒業後臨床研修
2011年4月より	現職

「基礎」という選択、 仕事と子育て

こんにちは。大学院ヘルスバイオサイエンス研究部薬理学分野特任助教の石澤有紀です。主に、糖尿病に合併する血管障害や腎障害の発症メカニズムの解明・治療薬の開発を目指して研究を行っています。

基礎医学の分野で研究者の道へ

医学科卒業生にはいわゆる「就活」というイベントはありません。医師免許を取得した人のほとんどが初期臨床研修を受けた後に、各

専門科に進み更に臨床のトレーニングを積みます。企業に就職したり、公務員になったり、予備校の先生になったり、他にも医師の就職先はあるにはありますが、ほとんどに極々僅かな人のみが「臨床医」以外の道を進みます。そんなマイナーな進路の中でも一番メジャーなのが基礎医学の道です。私が基礎を選ぶに至った理由は一口には言えませんが、中でも大きな要因は①卒業時すでに博士課程(MD-PhDコース※)を修了していた②院生時代、薬理で尊敬する先生方に出会っていた③子育てをしながら初期研修に臨んだことでしょうか。子育てと両立させながら、それまでのキャリアを

生かし自分の能力を発揮できるところに、と考えた結果、自然と基礎研究に身を投じることとなりました。現在のポストに就いて1年半、実際には院生として実験していたこと、スタッフとして研究を行うことは全くもって勝手が違う、順調な滑り出しというわけにはいきません。悩み悩み、未だ手探り状態が続いています。それでも、上司である玉置俊晃教授はじめ多くの先生方のサポートによって、2013年4月からアメリカへの研究留学が決まりました。このように早いうちに留学の機会に恵まれるのも、基礎医学を選択するメリットではないでしょうか。

子育てとの両立

実は私、これを執筆している2012年10月現在は第2子の育児休業中です。研究も中断・・・のはずですが、徳島大学AWAサポートセンターの支援事業により、支援員の方が私に代わって研究を続けてくれます。このように女性研究者をとりまく環境は日々快適になってきています。臨床と違って夜間の急な呼び出しはありませんし、自分のペースで自分の計画に沿って仕事ができますので、家庭や子育てと両立させたい女性にとって基礎研究はお薦めです。

助走が大事

女性も男性も歳を重ねるにつれて、「興味の赴くまま好きなことだけ」って訳にはいかなくなりません。自分磨きに没頭する暇もありません。自分以上に大切なものが増えてきちゃうんですね。そこで私自身の反省も込めて、『助走が大事』！身軽なうちに、多くのこ



薬理学教室集合写真(本人前列右端)

とを経験して力をつけ、思いっきりスピードを上げておくと、より高く遠くへジャンプできます。もしペースダウンしなくちゃいけないときにも、速く、長く、余韻で走り続けることができるんじゃないかと。先輩の皆さん、充実した学生生活を送ってくださいね！

(※)徳島大学のMD-PhDコースとは
徳島大学医学部医学科を4年次修了時点で一度退学し、大学院医科学教育部(博士課程)へ入学する。3または4年の研究期間を経て大学院を修了。大学院修了後は医学部5年次に再入学し、2年間を経て医学部を卒業する。(医師国家試験は6年次で受験)



Lavigne教授を囲んで昼食(本人右前)

研究室から見える夕焼け

À Montréal

徳島大学病院 総合歯科診療部 助教
安陪 晋 (あべ すずむ)



smoked meat とピクルス

2007年4月から2010年3月までの3年間、カナダ・モントリオール大学でGilles Lavigne教授の下、「人睡眠時の歯ぎしり」に関する研究のため留学させていただきました。モントリオール事情に関しては既に、2011年10月「とく talk (145号)」で詳しく述べられているので、街の紹介は割愛させていただきます。印象に残っている食べ物だけを紹介します。

モントリオールでガイドブックなどにも載っている珍しい食べ物として「smoked meat」があります。名店もありますが、私はモントリオール市郊外にある「Abie's Smoked Meat & Steak」が店の感じから好きでした。この食べ物、写真から見てもわかるようにかな

りのポリウムで、脂身も多かっため、脂身好きの私には満足な一品でした。このお店を知ってからは頻繁に通い、脇腹の脂肪も増えました。

さて、留学先のモントリオール大学ですが、私の研究室は研究棟最上階で、また大学が高台にある為、街並みが一望できる素晴らしい部屋でした。広さは8畳程で、本棚2つと個人の机と3台のコンピュータが置いてある長机があり、1人で使うには十分でした。まずは、睡眠解析する為のPCの使い方方を教わり、研究がスタートしました。私に与えられた最初の研究テーマは「全身的に痛みを伴う患者の睡眠時の脳波と心電図の解析」でした。「歯ぎしり」研究とは少し離れていましたが、この研究を通して解析プログラムの使い方覚えさせました。その後、様々な研究テーマを頂きました。3年間を通して、睡眠障害の中の歯ぎしりや痛みについての解析をしていましたため、自分が留学前にイメージしていた研究と違うことで、かなりとまどい、そして悩みました。留学中は必死だったため、ただ与えられた研究をこなすだけでしたが、留学後思い返すと学んだ1つ



睡眠ラボの仲間たち

1つから色々な考え方や物の見方を教わる事が出来たと思います。

今回のモントリオール大学への留学の機会を与えて下さった河野文昭教授、当時の学部長の坂東永一教授(現名誉教授)、最後までご心配をおかけした中野雅徳教授(現名誉教授)、そして暖かく迎えて下さったGilles Lavigne教授生活面でサポートして下さいました。教授の奥さんChristiane Manzami、留守の間ご迷惑をおかけした医局の先生方、留学に関して一から教えていただいた先輩、モントリオール大学の皆様ととにかくここでは書ききれないほどの方々に大変お世話になりました。ただただ感謝の念で一杯です。